

日本人学習者のための効果的な外国語学習法の探求

大学生による英語ナラティブの分析と考察

吉田 安曇

1. 研究背景と目的

ナラティブ・アプローチは、外国語教育等、幅広い分野における実践とその有効性が実証されてきたが(秦・村田 2020; 北出 他 2021)、その多くは母語による語りを研究データとして用いており(那須 他 2022)、学習者が外国語で発信したナラティブに着目した研究は少ない。本研究では、日本人大学生が英語で発信したナラティブ・データの分析・考察を通して、L2 でのナラティブ分析の意義を検証し、日本語での語りでは表出しない特徴を捉えることを目的とした。さらに、日本人大学生の英語ナラティブにおける特徴や英語学習への動機付けに作用する要因等についても考察した。本発表では、国立大学の学生 145 名の英語ナラティブの全体的な傾向を提示するとともに、4 名のナラティブを個別に分析した結果を紹介し、日本人大学生の英語学習の実体を明らかにした。特に以下の 2 つの問いに対する検証を試みた。

①より良い外国語学習のためには、どのような経験が効果的なのか。

②日本人学習者の動機付けに作用する要因とは何か。

2. 先行研究

本研究に関連する先行研究は、① L2 によるクリエイティブ・ライティング、② L2 によるライティングの文体分析、③ 言語学習者のナラティブ分析、の 3 つに分類できる。まず①についてであるが、ターゲット言語によるクリエイティブ・ライティングは、昨今 L2 クラスにおいて一般的な実践となってきた。例えば、久世 (2024) では、文学作品をメンター・テキストとして書くという活動例について紹介し、学習者による L2 でのナラティブ (自伝的パッセージ) を分析・考察している。②においては、Yoshida et al. (2022) が、日本人 EFL 学習者の英文エッセイ等の分析を通して、彼らの英語能力を評価・測定する点において、教育文体論が有効なツールであることを検証している。最後に③に関して、那須 (2022) では、EFL 学習者の英語学習履歴の調査としてインタビューを実施し、英語学習の成功事例に関するナラティブの分析より、効果的な学習法を提示している。これらの研究は英語教育へのナラティブ・アプローチとして重要ではあるが、久世 (2024) は、日本人大学生の英語学習体験についての語りを分析し、その実情を明らかにする本研究とは目的を異にしている。また、那須 (2022) とは異なり、L2 でのナラティブを研究データとして用いた点が、本研究の特色と意義である。

3. 実証研究

ここでは、本実証研究の方法について説明する。まず、2023 年 6 月から 11 月にかけて、発表者の担当する学生 145 名に対し、「英語と私」をテーマに 200~300 語程度の英文エッセイを課した (制限時間は 50 分、電子機器の使用は禁止)。同時に、学習履歴や現在の英語力等に関するアンケート調査も実施した。まず学生全体の特徴や傾向について検証し、さらにナラティブ及び文体分析により学習者の特徴がより明確になったと思われるサンプル (協力者 A・B・C・D) について個別に分析した。また、外国語学習に効果的な経験や、学習者の動機付けに作用する要因についても考察した。ナラティブの分析に際しては、Labov (1972) を参照している。これにより、ナラティブの起承転結や語り手が話のヤマとして強調したいと意図している部分等の測定が可能になると考えられる。

次に、4 名の協力者の基本データを以下の表に示す。この 4 名を選定した理由としては、全員英検 2 級を取得しており一定程度の英語力を保持していると推測されること、また、それぞれ英語学習を開始した時期が異なることから、より多様な学習履歴の反映が期待できること等が挙げられる。

	学 年	資 格	英語学習開始時期	現在の英語への意識
A	国立大学 2 年生	英検 2 級	中学校入学以降	どちらとも言えない
B	国立大学 2 年生	英検 2 級	小学校高学年	どちらかと言うと得意
C	国立大学 2 年生	英検 2 級	小学校中学年	とても苦手
D	国立大学 2 年生	英検 2 級	小学校入学前	どちらとも言えない

4. 分析結果と考察

まず協力者Aのナラティブでは、明確な起承転結が見られた。具体的なエピソードとしては、男性用トイレに誤って入って来てしまった女性外国人観光客に英語で指摘するといった、より実用的な場面での英語使用について描写されている。また、趣味である洋楽鑑賞が英語学習へのモチベーションとなったことについても語られている。また、‘you’を多用し読者に質問を投げかけたり、読者に向かって語りかけたりしながら、自身の意見を主張していることが分かる。全体として非常に興味深いエピソードが提示されており、読者を惹きつけるナラティブであると言える。次の協力者Bのナラティブでも、全体、また各エピソードを通して、起承転結がはっきりしている。特に、この協力者が中学生の時に、外国人教師と文通をしていたエピソードが興味深い。教師からの“‘I’m looking forward to your cute letters.’”という激励が大変嬉しく、英語学習への動機付けに繋がったと述べている。もしこれが、“‘I’m looking forward to your letters.’”というセリフであったならば、単なる社交辞令と捉えられたかもしれないが、‘cute’という言葉がこの協力者の心を掴み、英語学習へのモチベーションにポジティブに作用したと推測される。また、もう一つのエピソードとして、アルバイト先での英語使用体験について語っているが、直接話法を用いて外国人観光客とのやり取りを再現することで、より臨場感のあるナラティブとなっている。文法的なミスはあるものの、全体を通して非常に生き生きとしたナラティブであると言える。次に、協力者Cのナラティブを見ていく。この協力者は英語学習に対してあまり熱心とは言えず、ややネガティブな感情を持っている。特に、中学校入学後の初めての英語試験での体験（‘I’が常に大文字で表記されるとは知らずに小文字で書いてしまったために満点が取れなかった）が、英語学習へのモチベーション低下のきっかけになったと語っている。このことについて、協力者Cは、教師がこの英語独特のルールについて教えてくれなかったと暗にほめかしており、教師への不満・不信感が英語学習への動機付けにネガティブに作用したと考えられる。最後に協力者Dであるが、将来のキャリアにおける英語の必要性については認めつつも、英語学習そのものに対してはネガティブな見解を示している。それは、これまでに実用的な場面での英語使用の経験がないからであると述べている。協力者C・Dの語り方・スタイルの共通点としては、“‘I don’t like studying English.’”や“‘I want to study more about medicine, not English.’”といったような直接的な表現を繰り返している点が挙げられる。もしこれが日本語によるインタビュー形式の語りであったならば、英語教員を目の前にして、このような直接的な表現が繰り返されることはなかったかもしれず、これは、L2での語り、あるいは‘written narrative’の特徴と言えるかもしれない。

以上の分析結果から、本研究の問い①「より良い外国語学習のための効果的な経験」に関して、学習者の興味（音楽や映画等）が英語と結びついている場合、動機付けへと繋がるのが分かった。また、より実践的な場面における英語使用の必要性も確認された。次に、問い②「日本人学習者の動機付けに作用する要因」については、教師の役割や印象、激励等が、良くも悪くも学習者の意欲に大きな影響を及ぼすことが明確になった。

5. 結論

本研究の分析を通して、L2によるナラティブ分析の有効性が一定程度実証されたものとする。しかし同時に、L2による分析には、それに耐えうる相応の英語力が不可欠であることも明らかになった。また、L2での語りの独自の特徴（率直でより直接的な表現等）も確認されたが、同一学生によるL1でのナラティブとの比較等を通して、今後さらなる実証研究を積み重ねていく必要がある。さらに、日本語を母語とする学習者のみならず、様々な言語を母語に持つ学習者のナラティブの収集及び分析を通して、他言語によるナラティブとの普遍性・相違点の検証を行うことも重要であろう。最後に、教師が学習者に与える影響力の大きさを再認識するとともに、英語教育に携わる者として日々気持ちを引き締めていく決意を新たに、結びとしたい。

引用文献

- 秦かおり・村田和代 編 2020. 『ナラティブ研究の可能性：語りが写し出す社会』 ひつじ書房。
- 北出慶子・嶋津百代・三代純平 編 2021. 『ナラティブでひらく言語教育』 新曜社。
- 久世恭子 2024. 自伝的小説に基づくクリエイティブ・ライティング. 日本国際教養学会 第12回全国大会 ポスター発表。
- Labov, W. 1972. *Language in the Inner City: Studies in the Black English Vernacular*. University of Pennsylvania Press.
- 那須雅子 2022. オーラルヒストリーを用いた英語学習に関するナラティブ研究. 那須雅子・坂本南美・寺西雅之 編『ナラティブ研究の実践と応用』 学術研究出版. 65-81.
- 那須雅子・坂本南美・寺西雅之 編 2022. 『ナラティブ研究の実践と応用』 学術研究出版。
- Yoshida, A, Teranishi, M., Nishihara, T., and Nasu, M. 2022. The Impact of L1 on L2: A Qualitative Stylistic Analysis of EFL Learners’ Writings. In *Pedagogical Stylistics in the 21st Century*, eds. Zyngier, S. & Watson, G. 343-369. Palgrave Macmillan.